



日本医療機能評価機構認定病院

美山だより

理念

よき医療とやすらぎの環境



第28号

2014.9

社団医療法人 啓愛会

美山病院

〒023-0132 奥州市水沢区羽田町字水無沢495-2

TEL 0197-24-2141

FAX 0197-24-2144

URL <http://www.keiaikai-miyama.jp/>

美山病院の基本方針

- 1・地域医療に貢献し、すべてのサービスに誇りと責任を持ち愛される病院になります。
- 2・医療人としてよりよい医療や看護が提供できるよう自己研鑽します。
- 3・安心した療養生活ができるように心の通った介護をいたします。
- 4・健全経営を確立し、常に個人と組織が向上する環境を保ちます。
- 5・病院組織をあげて医療の安全確保や感染対策に最善を尽くします。

緩和ケア市民公開講座を開催

平成26年6月13日 午後6:30～ 奥州市文化会館 Zホール

及川院長より開会の挨拶に始まり、菊池緩和ケア科長と佐藤緩和ケア病棟師長が講師となり緩和ケア病棟開設して3年の歩みの紹介や利用方法や見学・相談についてお話をされました。

特別講演として岩手医科大学医学部 緩和医療学科特任教授・木村祐輔先生より「がん治療とともに使う緩和ケア」と題して講演をして頂き、同じ辛さを共有する姿勢、後悔しないようにする姿勢、症状緩和について医師だけでなく、チーム医療として地域連携を密にする必要性や大切さを学びました。最後に携わる医療関係者として、「緩和ケアがとても充実した県ですね」と言われるよう頑張っていきたいと結んで頂きました。私達も大切に一日一日を生きる患者さんへの命を守るお手伝いをさせて頂きながら、美山病院も微力ながら一緒に市民、県民の為に頑張りたいと思います。（事務長千葉新一）



及川院長挨拶



座長には孝仁病院
臼木院長先生



緩和ケア科長
菊池俊弘先生



緩和ケア病棟師長
佐藤裕子氏



岩手医科大学医学部
緩和医療学科
特任教授 木村祐輔先生

目次

- | | |
|--------------------------------------|---------------------|
| 1P …… 緩和ケア市民公開講座 | 2P …… 第16回美山・ベルク夏祭り |
| 3P～4P栄養科の紹介 | 5P …… 岩手医大医学生医療体験 |
| 6P …… 全職員BLS講習に参加 | 7P …… 七夕の会（遺族会） |
| 8P …… ボランティアによる花壇整備／2回目の病院機能評価受診を終えて | |



『第16回』

美山・ベルク夏祭り

平成26年8月23日(土) 16:00~17:30

8月23日、今年は法人の行事の都合で例年より約1ヶ月遅い開催となりました。例年であれば炎天下での開催となり患者さん方や入所者さん方の健康への配慮が必要になりますが、本年よりベルクホール内での開催になり時期が1ヶ月ずれたこともあり大変過ごしやすい夏祭りになったのではないかと思います。



及川病院長兼施設長の挨拶

(昨年は南京玉すだれを披露して頂きましたが、今年見られなくて残念でした)



多田実行委員長の挨拶

(身重の体に不安を抱えながらも頑張りました)



ポリネシアンダンス教室 Leialoha 様によるアトラクション



小さい子供さんによるダンスもあり、患者さんは思わず「可愛らしい」と見入っていました。



ボランティアサークル

YUU 様によるアトラクション

模擬店は今年も美山病院の栄養科を中心に薬局、病棟看護師・看護補助、事務スタッフで準備から販売までを盛り上げました。リハ科スタッフも患者さん方の病棟への迎えからケアまで当日勤務していた病棟スタッフにもたくさんの協力を頂き、大盛況のうちに終了できたことに本当に感謝いたします。ありがとうございました。(総務主任 佐々木辰一)



模



擬



店

岩手医大 医学生が医療体験で来院

岩手医大医学部の1年生126人は6月の23日、24日両日県内外の医療機関を訪問し医療体験を行った。

地域医療の実態に触れ現状を把握してみて、自分の仕事の役割は何か将来どんな医師を目指すのかを考えることを目的としたものである。

美山病院にも4名の医学生がやってきました。院長から当院の方針や診療の基本的部分を講和して頂きました。

当院の特徴は入院患者の多くは後期高齢者で急性期病院からの継続治療、

リハビリを依頼されるいわゆる「慢性期病院」であること。

診療のあり方としてパターナリズムからチーム医療そして患者参加の医療へ。

治療の「自己完結型」から「地域完結型」へと地域医療における当院の位置

付けを話されました。基本的診療理念は設立者のいう「お年寄りが安心

して療養できる病院」そして「緩和ケアの心をすべての病棟に」であり

緩和ケアの心とは患者を思いやる心、そのためには患者さんの身になって考え、

コミュニケーションをとることが必要である等丁寧に優しく問い合わせながらの内容でした。

医者の道への新たな一步

講和の後は、午前中作業療法士・理学療法士に同行してリハビリ体験や緩和ケア病棟での訪問体験、患者さんへの食事介助体験、昼食は患者さんと同じメニューで一般食とソフト食を食べて頂きました。

午後は、一般病棟や療養病棟の回診補助体験をして頂き最後に感想懇談会で一日の医療体験が終了しました。緊張の中にも何かしら得るものがあったようでした。



1人の学生が指を部活で怪我していたので、院長がシーネ固定の実技指導を行う。夕方近くで緊張感もやわらぎ和やかな実技指導の様に見えました。

彼女達の未来へエール

栄養科の紹介

平成 26 年 7 月 1 日現在、当院の栄養科には、管理栄養士 4 名（ハイム・ベルク管理栄養士 1 名含む）、栄養士 2 名、調理師 15 名のスタッフが在籍しております。

今年度の栄養科の目標は「温かい食事と思いやりの心」を掲げました。以前にも増して患者さま個々に合わせた食事の対応が多くなってきています。そのような中、常に食べる人を思い、食べて頂くという気持ちを持って献立作成、調理に従事するよう努めています。6 月の嗜好調査の中で「食事が楽しみ」と答えた患者さまは 94% でした。食は命の根源であり、また、生活に潤いを与えてくれます。患者さまにとって安全・安心な食事を提供していくよう、これからも栄養科一丸となって食事づくりに取り組んでいきます。

（管理栄養士 菊池麻衣子）



最も人気のあるにぎり寿司！
夏季を除いて実施しています



八幡巻きの仕込み中。ごぼう、人参、いんげん
を豚肉で巻いて彩り良く調理します

食事は旬の食材を取り入れ、四季折々の行事食を実施しております。患者さまから最も喜ばれる食事は「にぎり寿司」です。他にも、夏は七夕、秋は敬老の日、冬はクリスマス等の行事に合わせ、また、病棟でのイベントに合わせ、手作りおやつを提供しております。

厨房の一コマ



「炊き立ての赤飯」

ご飯は岩手県産の無洗米を使用しています。

ご飯を炊くのに使用する米の量は 1 日に 17 kg、

全粥は 11 kg です。合わせて 28 kg で、10 kg の米の
3 袋弱の量になります。

患者さま個々に合わせてご飯、全粥の量を
計量し、配膳しております。



只今、天ぷらを揚げています



カラッと揚がったかき揚げ！



後輩へ指導しながら、手際良く盛り付け



回転釜で全粥を炊きます



大人気のカレーです

月2回カレーライスを実施しています



命の根源の担い手は私達で～す。 !

防災の日 備蓄食品を知ろう

初の試みとして、栄養科で9月の防災の日にちなんで、職員に備蓄食品の味や提供時の注意点を学ぶ事を目的として粥、缶パン等の試食を実施する。

《実施日 平成26年9月18日》



BLS（一次救命処置）講習会

第1回 平成26年5月31日（土） 50名参加

第2回 平成26年6月21日（土） 45名参加

第3回 平成26年7月12日（土） 56名参加

第4回 平成26年7月26日（土） 36名参加

〈時 間〉

PM1：00～

〈場 所〉

リハビリテーション室

〈参加者〉

院長他 186名

〈講習状況〉

各グループに分かれて救命士の方より実技指導を受けて個々に実践してみた

9名～11名の小グループになり、全員が一通り行えるように体験する

水沢消防署の救急救命士の皆さんにはお休みを返上してご協力頂き大変感謝しております。 ご協力ありがとうございました。



「水沢消防署の救急救命士の皆さん」



「D V Dで勉強」



「グループ毎に分れて実践」



Aグループ



Bグループ



Cグループ



Dグループ



Eグループ

自動体外式除細動器（**AED**）は、心室細動の際に機器が自動的に解析を行い、必要に応じて電気的なショック（除細動）を与え、心臓の働きを戻すことを試みる医療機器です。

当院には以下の場所に設置しています。



「1Fロビー」



「1病棟廊下」



「リハビリテーション室」

第3回 遺族会「七夕の会」開催

日時 平成26年7月19日 土曜日 午後1時30分から3時まで

開催場所 緩和ケア病棟2階ホールにて

「七夕の会」では、がんという病気で大切な方を失い、悲しみから立ち直れないで辛い日々を過ごされているご遺族と、入院されてから深くかかわってきた医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、相談員、ボランティアの緩和ケアチーム全員で、ご遺族の胸の中にある辛い思いを語り合い、涙することで、気持ちの切り替えができ元気を取り戻すきっかけになるようにという思いや願いから行っています。

当日は、心地よいと感じて頂けるような空間作りを行い、
栄養科手作りの菓子やドリンクも選んでいただけるよう
に数種類用意しました。

語らいの間、ピアノの定期慰問に来ていただいている方の
ピアノの音色に、いつしかつらい気持ちも癒され、
各テーブルの話も弾み、職員もご遺族の方と涙を流していました。
ボランティアの方々には、話を途切れさせないように、ドリンクをそっと置いていかれる気遣いもありました。



「手作りお菓子」



「スタッフと遺族の皆さんとの懇談の様子」



「菊池緩和ケア科長より挨拶」

ご遺族の方から、「3回忌もすみ、やっと泣くことがなくなりました」「私たち家族にも気遣ってもらい、美山病院の緩和ケア病棟に入院して本当に良かった」「居心地が良かった」「遺族会にはまた来年も参加したい」などたくさんのお言葉を頂きました。

及川病院長の「私たちが皆さんを支えていたのではなく、私たちが皆さんに支えられていたのです」と挨拶の言葉がありましたが、まさにその通りだと実感しました。

患者さんと深くかかわってきた分、私たちも辛い思いが残ります。このような言葉を頂けることで、励みとなり、次に進むきっかけづくりとなっており有難く思っております。

最後に参加されたご遺族の方と職員全員で記念撮影を行いました。ご遺族の皆様もそして、職員もとても良い笑顔で写っていました。来年も笑顔で会を閉じる事が出来る事を願っております。

花壇の整備 平成26年7月1日に実施

花植えのボランティアも今年で2回目となり段取りもよく移植作業して頂きました。

患者さん達が凄く喜んでおり、大変ありがとうございました。

今年移植した花はサルビア、サフィニア等です。

サルビアの花言葉は「良い家庭」家族愛」であり、サフィニアの花言葉は「心がなごむ」「心のやすらぎ」であります。花言葉に負けないようにスタッフも応対できるよう頑張ります。



第2回目の病院機能評価受審を終えて

事務長 千葉新一



今年の大きなイベントである病院機能評価受審が7月17日～18日の2日間に渡り更新審査をして頂きました。

1回目の認定は、平成21年8月7日～平成26年8月6日までの5年間を病床種別「一般病院」として認定して頂きました。今回は病床種別「慢性期病院」として更新をお願いしました。取り組みにあたり、前回の指摘事項の一部に、診療録を拝見するとドイツ語で書かれたものが見られるが、誰にでも判読できるようにと書いて頂きたいとありました。懐かしいとかそんな手書き時代もあったなど今さらながら思い出されました。

さて、今は電子カルテを採用しているので、空床管理システム導入、セキュリティの仕組みや診断名のコーディングが望まれるなど指摘の部分がほぼ改善されたと思います。

次に各部署人員配置ですが、特に医師やリハビリスタッフについての配置数は、十分とは言えませんと部署によって配置にバラつきがあると指摘を受けました。リハビリスタッフは当初5人体制でしたが、現在は13名と以前から見ると手厚い配置に致しました。また、受審時には医療相談員を1名配置しましたが、今は業務量が増えて一人ではオーバーワークのように見えますねとやんわりとご指摘を頂きました。

いつも受審で感じることは、今までやってきたことの振り返りが出来、自分達の取り組みがこれで良かったのか、悪かったのか第三者の視点で診断して頂きますので、今後の美山病院の取り組みの継続や方向性が見出されるので有難いと思っております。

病院経営も大変ですが、個人情報の管理・院内感染対策・医療安全対策・医療訴訟等の対策も年々大変な時代になって来ておりますので、第三者の指摘は大いに有難いと思う気持ちで、今回も受審に取り組みました。

機能評価受審とは 現状の客観的把握。改善すべき問題点の明確。

優れている点や改善すべき問題点が具体的に示されるので、新たな挑戦に向かう意欲の源にさせてくれます。